

大阪府 教育コミュニティづくり実践交流会

この実践交流会は、オール大阪で教育コミュニティづくりを推進するため、大阪府・大阪市・堺市の教育委員会共催により、地域ボランティア・行政担当者・学校関係者等及び関心のある方々の研修・交流の場として開催しています。令和3年度は新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、発表者の報告や講演の様子をオンラインで配信しました。当日の参加者は88名で、後日の配信には113名の視聴者がありました。

日程：令和4年2月26日（土）13：20～16：30

内容：実践報告／ ① 大阪市立香葦・御幣島小学校区教育協議会—はぐくみネット—

（学校支援活動）

② 堺ユネスコ協会

（学校支援活動）

③ 府立堺支援学校

（学校支援活動）

④ 松原市立天美西小学校区土曜こども体験活動推進委員会

「おやゆびとまれ」

（おおさか元気広場）

⑤ 柏原市親学習リーダー親まなびスマイル

（家庭教育支援）

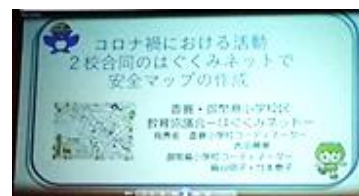
講演／ 大阪大谷大学教育学部長特別支援教育実践研究センター長 小田 浩伸

※毎年行われるブース展示は、オンライン開催のため実施しておりません。

◆実践報告

学校支援活動、おおさか元気広場、家庭教育支援に関わる実践報告がありました。

大阪市からは、学校支援活動として、大阪市立香葦小学校と御幣島小学校の小学校区教育協議会—はぐくみネット—が、合同で両校区の安全マップの作成をした活動について実践報告を行いました。両校は、尼崎市に隣接する西淀川区の香葦連合町会の地域にあり、かつてそのあたりは工業地帯でしたが、次第に高層マンションが多数建設されるようになり、ものづくりの町から住宅街へと変貌しました。近く創立150周年を迎える香葦小学校では、児童数が平成19年には900名を超えるなどの変化に対応したことから、平成20年に校区を分け新たに御幣島小学校が開校しました。一つの連合町会の中に小学校が2校できたことで、はぐくみネット事業・生涯学習ルーム事業・学校体育施設開放事業の事業団体も二分化され、地域諸団体は両校の活動に協力することになり負担感が増えました。その中で姉妹校・兄弟校としてできる取り組みを模索し、両校のはぐくみネットが協力し合って合同イベントに取り組み、諸団体も学校支援活動を分担するなど、実態に合った体制が整えられるようになったということです。



令和2年度、香葦小学校はぐくみネットでは、コロナ禍における活動のあり方について話し合う中で、平成25年度から始まった学校選択制により校区外から通学する児童もいて、より

通学路の安全が重要であることに注目し、安全マップを作成することになりました。ステイホーム中でもできるのではないかと御幣島小学校のはぐくみネットに合同での活動を提案したところ、同様にコロナ禍での活動に苦心していたこともあって快諾となりました。御幣島校区のはぐくみネットコーディネーターは、高齢化によるメンバー交代が進められている中で、安全マップづくりには新旧メンバーが協力しあって参加されたそうです。

安全マップは、子どもたちが見やすいように作ることを心掛けて作成されました。香蓼小学校の創立130周年記念時に作成したマップを建物や道路の新たな情報に書き換えると、20年の間の街の変容に改めて驚いたそうです。子ども110番の家の場所にマークを入れたり、通学路の危険な場所を明記したり、見守り活動の方々がおられる場所を書き込んだりと作業を進めました。対面の会議は2回にとどめ、SNSで「マップ作成委員会」というグループラインを作って連絡を取り合ったということです。担当者はオンライン会議で提出される情報をマップに書き込み、PDF化して情報



共有を図るなど、コロナ禍ならではの知恵を結集。両校の校長先生からもアドバイスを受けて原版が決定し、令和3年3月に印刷が完成しました。全児童・はぐくみネット関係者・地域諸団体に配布し、各町会には回覧、翌月には新1年生にも配布しました。安全マップを見ながら親子や家族で通学路を確認しあう機会になってほしいという思いの詰まった活動となりました。

今後の課題は、PTAとの連携協力により、若い世代にもはぐくみネット活動を周知して、共に活動できる人を増やし、活動で得られたメリットを伝えたいということでした。発表の最後に「コロナによる2年間の自粛生活を体験して、一層はぐくみネット活動の大切さを感じた。家族の絆、地域とのつながり、学校生活の大切さを実感し、はぐくみネットの活動が子どもたちの生活の中で生かされ、心身共にはぐくまれていくことを願って活動を続けていきたい。『人と人との心がつながる活動』を目指して今後も互いに協力し合って活動していきたい。」と結ばれました。